

心を寄せて

H . H

私は、平成14年に里親としての認定を受けました。

夫と二人暮らしに子どもの養育という楽しみができ、気持ちが脹らみました。

ふれあい里親としては、認定の年から二人の兄弟を7年間続けていて毎回心温まる思いで受け入れています。

振り返ると養育里親としては、今までに我家より四人の子ども達が私達にパワーを置き土産に巣立っていきました。

登録3年半経った頃の平成17年の夏、車上暮らしのため施設に一時保護をしていた、軽度の知的障害のある中学1年の男子を3年位という委託依頼があり、すぐに引き受けました。

中学校への片道4キロの道を車で送り、夕方私が勤めの帰りに学校まで迎えに行くという生活が続き、よく食べ、よく寝、我家に慣れてきた頃、K君の実親より「子どもに会いたい」との申し出が児童相談所にあり、K君は指折り数えてその日を待ち、私達が用意をした小さなクリスマスケーキを両手にしっかりと持ち、実親に会いに行き、一緒に食べたそうです。

しかし、実親に会った直後からK君の態度が変わってしまいました。K君の気持ちを聞き、児童相談所に相談をし、翌年3月末までと委託期間が短縮されました。

このような時期に緊急の委託依頼があり、K君の養育で心身がギリギリのところ、無理と思いつつも、夫に相談したところ、「今、おまえはK君のことでいっぱいになっている。だからいいと思うよ、受けたら」の一言で二人の兄弟を受託しました。保育園に通っている二人が私達になつき、日を迫う毎に兄弟の愛らしさに心が救われ、K君もまた受託時のように少しずつ心を開いてくれるようになりました。

兄弟の受託期間は1ヶ月でしたが、私の心は充電され、K君にとってもよかったのではないかと今でも思っています。3月末にK君は元の施設に戻って行きました。

私はこの2つの受託により児童相談所とK君、二人の兄弟から次の3つを学びました。

1 児童相談所の的確なアドバイス

「うまくいかない時は、失敗したと思わないで、次のことを考えればいいのよ」といってくれたときは心が救われました。

1 夫の支え

気持ちの抜け道を見つけてくれる。

1 どんな時も大変と思わない

気持ちにゆとり、信念を持たなければ、自分に負けそうだから…。

この3つは、現在受託中の養育にも生かすように心掛けています。

そして、翌月の四月下旬、小6の女の子を5日間ですが預かりました。

Kちゃんの表情から、私はKちゃんを受託するに当たり余計な気を遣わせないで心身を休ませ、ゆったりとした生活を提供しようと思いました。

そのKちゃんを送り出して間もない四月末、委託依頼がありました。現在委託中のIちゃん6歳です。縁とは不思議なもので、手前勝手ですが夫にとってもよく似た女の子です。

私は、勤めを辞め、養育に専念することにしました。そして、Iちゃんをいっぱい愛すること、また、Iちゃんが自分を愛し、人を愛することができる大人に養育できる里親でありたいと心に誓いました。

委託から6ヶ月経った頃から研修で学んだ試し行動が現れ始めました。自分の対応が間違っているのかと思いつつ、「我慢、我慢、これは大事なひとつの通過点であり、絆に向かって進みたいと思う一念で、できる限りこの行動を受け入れよう、そして目先のことは考えず長い目で見て頑張ろう」と思いました。この試し行動は1年間続きましたが、今では穏やかでいろいろなことに挑戦しようとし、体験不足を解消するかのような生活をしています。Iちゃんは多くのことを私達に教えてくれました。これからもまた何かにぶつかった時には、この養育を思い出し、焦らずに対処していこうと思っています。